学力向上担当の先生方へ

岡山県教育庁義務教育課
平成29年12月11日 No.13

授業改革推進リーダー・推進員からの情報提供
～「協同的探究学習」について～

各校におかれましては、市町村独自の調査問題や県教委作成の秋チェック問題を活用しながら、２学期後半時点での児童生徒の学力定着状況を把握し、年度後半に重点的に取り組むべきことを明確にするとともに、授業改善に向けた取組が進んでいることと思います。

本号では、授業改革推進津山チームが東京都町田市の小学校視察で得た、児童が概念的な理解・思考を広げ深めることを目標とした「協同的探究学習」について紹介します。なお、教育時報１月号に「協同的探究学習」ついての論文が掲載されますので、詳しくはそちらを御参照ください。

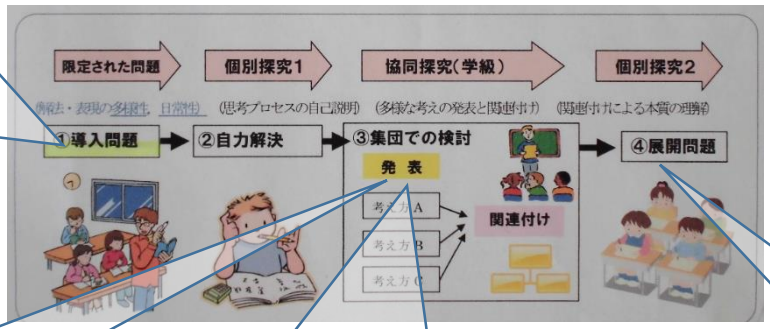
協同的探究学習とは？

単元を見通し、１単位時間の授業を主に「できる学力」を形成する時間か、主に「わかる学力」を形成する時間かに区別します。それぞれを育成するための指導法は異なり、後者の力を高めるための学習方法が「協同的探究学習」です。

できる学力	わかる学力
解法の手続きや型が定まっている問題に対する解決力のこと。 繰り返しによる自動化を図ることで高まります。	解法の型が定まっていない問題に対する解決力のこと。 関連付けによる「協同的探究学習」を取り入れた授業で、教科の概念的理解や思考の精緻化・構造化を図ることで高まります。

協同的探究学習における基本的な1単位時間の流れ

「協同的探究学習」において**導入問題はとても重要**です。
単元の本質的なねらい（面白さ）に迫る問題、解や解法が多様な問題、既習学習や日常経験から８割の子が取り組める問題のように、問題を設定するポイントがあります。



個別探究（導入問題と展開問題）と**協同探究**（児童相互の多様な考えの発表と関連付け）を組み合わせて学習します。

岡山県マスコット「ももっち」

多様な考えを発表させるために、
- 子どもの言葉を尊重します（教師主導にならないことが大切）。
- 多数の考えを発表させます。
- その際、考えた理由や根拠を説明させます。

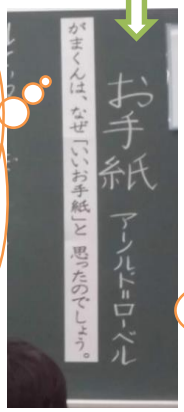
児童が関連付けを考えられるようにするために、
- 発表された考えが、どのように他の考え方と結び付くかを考えさせます。
- 関連付けることで単元の目標に迫っていきます。
- 教師はどの考えがよいかという視点でまとめません。

導入問題と同質の**より発展的な内容の問題**とします。
集団で検討された考えから選択・統合し、本時の学習内容の理解を深めます。

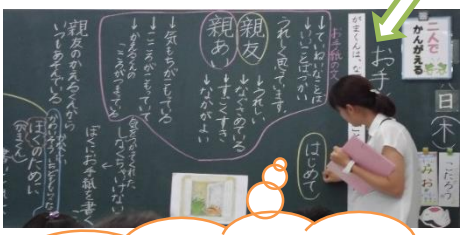
協同的探究学習における基本的な1単位時間の流れ

第２学年国語科
「お手紙」を参観しました。

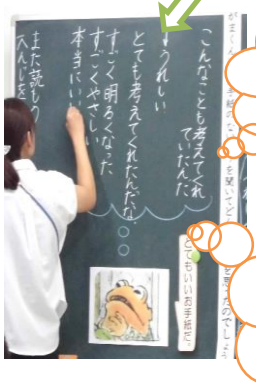
導入問題 → 自力解決 → 集団での検討 → 展開問題



「お手紙の文面から分かること」、「登場人物の心情の変化について考えること」の両面から考えさせる問いでした。



先生は、児童の読みが深まるよう、意図的に指名をし、児童と対話を重ねながら意見を引き出します。発言を板書する際には、関連付けに基づいて分類し、色線で囲みました。



個別探究２の後、ワークシートに合わせた吹き出し型の板書に、意見を位置付けました。

児童は、登場人物の心情やその変化に加え、２人の心のつながりについても、それぞれの言葉でどんどん表現しており、読みの深さに驚きました。